キャラクター名	プレイヤー名
リュカ	

ポジション	ジャンク	**享年**	
メインクラス	サイケデリック	**暗示**	破局
サブクラス	ステーシー	**寵愛点**	2

初期配置	煉獄
最大行動値	15

能力値	クラス	修正	合計
武装	1	0	1
変異	1	2	3
改造	1	5	6

記憶のカケラ	内容
青い空	
銃声	
笑顔	一見ただの動物に見えるが、首の周囲に白くて毛のない「年輪」のようなものがあることを思い出せます。MC：あなールの「毛皮」とは二つの部分に分かれ一般的な、茶色い毛でしまったようなものでした。MC：そこで、年輪とは、何だったのでしょうか。MC：あなたはそれでいい。彼のとは、彼の生に関係の無い、茶色のただの毛皮です。MC：あなたはそれでいい。MC：あなたはそれでいい。年輪とは、何だったのでしょうか。
研究所	この書き手のことを、どこか知っている。それどころか、この書き手がこの研究所にいたことも。自分たちが、今いる四人が全員ここにいたことも、知っている。
秘密基地	研究室。年代記が、まるで、自分の目の前にあるかのように、鮮明に思い出される。研究室の中央に、巨大な円形の台。その上に、ガラス、ケーブル、そして、無数の光が、ゆっくりと、脈打つように、明滅している。研究者たちが、その台を、取り囲んでいる。その中心に、一人の少女がいる。その少女の、名前は、リュカ。研究者たちは、リュカの、能力を、観察している。研究者たちは、リュカの、能力を、分析している。研究者たちは、リュカの、能力を、利用しようとしている。研究者たちは、リュカの、能力を、恐れている。研究者たちは、リュカの、能力を、崇拝している。研究者たちは、リュカの、能力を、愛している。研究者たちは、リュカの、能力を、憎んでいる。研究者たちは、リュカの、能力を、無視している。研究者たちは、リュカの、能力を、忘れている。研究者たちは、リュカの、能力を、知っている。研究者たちは、リュカの、能力を、知っている。研究者たちは、リュカの、能力を、知っ